

アガパンサス

2016 年 7 月 10 日

発行：東海教区女性会

発行責任者：櫻井國江

印刷：アド・アール (株)

神の愛に生かされて ～励まし合い、互いの向上に努める～

主題聖句 心を新たにしてお自分を改めていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであることをわきまえるようになりなさい。

ローマの信徒への手紙 12：2 より

<巻頭言>



さようなら

大垣教会 **ベルニダ・ボーマン**

日本での素晴らしい 63 年の後、私はアメリカに帰ることを決めました。宣教師として今も日本にいる二人の息子たちも齢を重ねてきており、遠くない将来にアメリカに帰ることになると思います。その時に一人で日本に残るよりは、87 歳になった今、自分の足で動ける間に帰ることが大切であるように感じます。

私は 1953 年、23 歳の時、日本に来ました。私たちの最初の宣教の地は湯河原と小田原でした。湯河原で月例婦人会を始め、「聖書の女性たち」を学びました。これらは JELC 東海婦人会が始まる前のことです。私は、湯河原の婦人達が他の教会の婦人達に会う事が大切だと思い、沼津教会の宣教師夫人だったダレーヌ・アイモンに電話し、二教会合同の箱根遠足を計画しました。1 年ほど経って富士教会の婦人が加わり、富土地域のどこかで 3 教会合同の遠足をしました。

私の理解では、東海教区婦人会は 1965 年に始まりました。私たちは 1965 年に大垣に来てからも、教会が建てられると婦人会を始めました。婦人会があるといつでも何人かの婦人達と出かけたことを思い出します。

私たちが使徒信条を唱えるとき、「聖徒の交わりを信じます」と言います。イエス様は共に集まることをとても大切にされました。日曜日の朝に一緒に礼拝するとき、私たちはお互いに励ましと愛を受け取ります。私たちが女性会に参加するときも、私たちはお互いに励ましと愛、そして多くの祝福を受けます。一緒に集まり、お互いに祈り合うことは、私たちクリスチャンの信仰を強めるためにとても重要です。この交わりは私にとってとても大切でした。私たちはキリストにあって姉妹になり、私が寂しく感じた時も、私は一人ではないことがわかりました。

私は 6 月にアメリカへ帰ります。何かわくわくする気持ちと同時に、今までとあまりにも違う生活に対する怖さもあります。私が新しい生活にうまく適応できるように、また私がこれから関わる人たちにイエス様の愛の証人となれるように、皆さまのお祈りを心からお願いいたします。私はテサロニケの信徒への手紙 二 3 章 16, 18 節のパウロの別れの言葉をあなた方に残します。

どうか、平和の主御自身が、いついかなる場合にも、あなたがたに平和をお与えくださるように。主があなたがた一同と共におられるように。

わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にあるように。

すべてを受け入れ
はぐくんでくださる神のもとで



女性会は今

《 3 》

もしできるなら、♪年代の離れたおふたり♪に書いていただくようお願いします。さて、どちらがお姉様？(^o^)

浜松教会女性会

御奉仕

佐々木和子



5 月の中旬、家の雑草をとっていると、ふと懐かしい、さわやかな風が通りすぎる。どこかで出合ったような風。あの感性は、何でしょうか・・・と、振りかえった時、70 年という長い人生を歩みながら覚えた、この世の生活と、神さまと共にある信仰生活の二つの世界が思い出されて、感謝と喜びが蘇ってきました。

浜松教会の女性会では、毎月第三日曜日の礼拝後、連盟会報にある聖書研究を読みあつて、渡邊牧師の

御指導のもと、男性方もいっしょに参加され、沢山の意見と感想を述べあい、また、聞くことができます。祝会や‘ほのぼのランチ’の時の食事会は、7 名前後の女性会メンバーですが食事の用意をして、20 名ぐらいの信徒が集まる楽しい一時を女性会は頑張ります。

神さまに感謝し、奉仕できる働きは、生きがいを感じる一つの女性会の働きです。



カレーパーティー

山本雅子

月例の女性会は第 3 日曜日の礼拝後に連盟のテキストに添って学んでいます。女性会員は少数ですが男性の参加もあり、よい学びの場になっています。

ペンテコステ礼拝後のカレーパーティーは女性会恒例のメニューです。

3 人の会員がそれぞれご家庭で作ってくださったものを会員一同感謝していただきました。おりおりの教会での食事会は楽しい交わりの場になっています。

“いづくしみ”

主題聖句「見よ、きょうだいと共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。」

ルーテル 4 教会（①日本福音ルーテル教会、②日本ルーテル教団、③西日本福音ルーテル教会、④近畿福音ルーテル教会）の女性たちの交わりと学びの場です。目的はルーテル教会の女性が共に交わり、霊的、社会的に成長し宣教の良き担い手となり、アジアの教会の女性と共に祈り、交わり、理解を深め、若い女性と次代を担う子供たちと成長しようとすることにあります。

関東委員会（①と②）関西委員会（①、③、④）があり、それぞれ活動しています。関西委員会ではほぼ 2 年に 1 度研修会を開催しています。昨年は 10 月 17 日に持田明広弁護士（クリスチャン）による研修会を行いました。関東委員会も不定期ですが集会を持っています。

今年 9 月にディアコニア研修会を開催予定です。

<芳賀美江>

みんなで無理なく

長谷川泰子

毎月、第二聖日礼拝後、女性会を行っています。連盟会報による聖書研究を三浦牧師に学んでいます。後は、報告や話し合いの時を持ちます。

5月の話し合いは、食事の件でした。5月29日に浜松・浜名の渡邊先生がみのり教会で御奉仕下さるので共に昼食会を持ちましょうと、カレーライス、サラダ、デザートを作ることにしました。

6月12日には、高垣姉(三鷹教会)の御奉仕がありますので、五目ごはん、すまし汁、デザートにしようと話し合いました。みんなで無理なくがんばっています。

最後に～うれしい出来事がありました。若い会員が結婚され、教会で礼拝後、大勢の皆さんの祝福の中でのすばらしい結婚式が行われました。

変わらない愛で

三浦めぐみ

みのり教会女性会のここ数年を振り返ってみますと、寂しいお別れがあり、新たに加わって下さった若いメンバーを喜んでお迎えもしました。共に集って御言葉を学ぶこと、祈り合い支え合う群れであり続けること。変わらずに大切にしたいことがある一方で、「今までどおり」ができなくなることもあるかも知れません。できることをできる形で喜んで担っていく時、いつも変わらない愛で導いて下さる神様が、私達の歩む道を指し示して下さいを信じます。

高蔵寺教会女性会

女性会と共同で



浅井道子

高蔵寺教会は、こひつじ園という幼稚園を付属にもつ教会です。我が子も3人お世話になりました

幼稚園と女性会共同でリサイクルバザーを行い、幼稚園のお母さん方との交流をはかっています。女性会は喫茶コーナーや雑貨コーナーを担当しています。女性会の方々の作るケーキは幼稚園のお母さん方にとっても好評で毎回楽しみにされています。今回のバザーにはみんなでアクリルタワシを作りました。これからも女性会の活動を楽しんでいきたいです。



お誕生日プレゼント

内藤真実



高蔵寺教会では、付属のこひつじ園の園児たちへのお誕生日プレゼントを毎年女性会で製作しています。今年は、手提げかばんでした。

私は、月に一度の女性会が楽しみです。食事の準備や、イベントの時にケーキを焼いてきたりと教会の為のお手伝い出来るからです。子どもたちがモリモリ食べてくれるのが嬉しいです。至らない私に役割を与えて下さって感謝します。抜けてる時もありますが温かく見守って下さい。

2016 年 5 月 28 日

第3回女性会の集い

【講演】

「原発核事故の時代をキリスト者として生きる」
～今、福島で起きていること～



講師：片岡輝美氏 1961 年福島県生まれ。85 年夫・片岡謁也牧師の日本基督教団若松栄町教会着任のため故郷会津若松へ。2005 年九条の会・西栄町学習会を結成。「自分のことばで平和を語る」をモットーに月例学習会やピースウォークや講演会などを企画。2011 年 3 月 15 日から 2 週間義弟宅（三重県鈴鹿市）に四男、妹親子と避難。会津若松に戻り、会津放射能情報センター（同年 7 月）を設立し代表となる。著書は『今、いのちを守る』（日本基督教団出版局）など。

踏み込んではいけない領域に

静岡教会 久保みさほ

純白の十字花どくだみの咲く頃を毎年心待ちにしている私です。

今年はこの美しい季節に 10 数年振りに女性会に参加し、福島原発核事故の講演を聴きました。

目に見えないものの怖さ、不安、怒り、そして何よりも放射能の影響は人間の寿命を遥かに超えて続くものであり、人間が踏み込んではいけない領域に人間は入り込んでしまったということでした。それがどういうことなのか、私は自分の無知を思い知らされました。わけても目に見えない放射能の健康への影響が、福島の子ども達に“白血病”という目に見える形で出現していることに愕然としました。「チェルノブイリの祈り」の著書にある実態と同じような現実が表出しています。

「人権の回復とこどもの命を守りたい」と語られた講師の願いと熱い思い、祈りが、参加者ひとりひとりの胸に届いた貴重な機会でした。

想像を遥かに超えた惨状

岡崎教会 遠入美智子

講師の片岡輝美様は、時折涙を流されながら当時の過酷な状況や現在の活動を映像を交えてお話しされ、胸が詰まる思いでした。ただ、大変だった様子をたとえ何度聞いたとしても多くの人は、現実としてなかなか実感できないのではないかと思います。私たちの想像を遥かに超えた、惨状だった（過去形ではなく現在も進行中）事と思います。

岡崎教会では「ミニ信徒会」と称して、毎月一回様々なテーマで勉強会をしています。福島原発事故が起きる数年前に、原発問題に詳しい内藤新吾牧師をお招きし、お話を頂いたことがありました。その時は福島原発が大地震で崩壊することなど思いもしませんでした。ただ、原子力発電が他の発電に比べ、危険であることを知る為でした。もっと詳しく知るべきでした。

今回の熊本地震では、幸い原発事故は無かったものの、川内原発が福島のようになっていたとしたらと思うと本当に恐ろしくてたまりません。

キリスト者の生き方

挙母教会 中根ます美

栄光教会焼津礼拝堂に、初めて伺いました
駿遠地区での教区「女性会の集い」には、久しぶりに参加いたしました。思い切って参加したのは、会津から片岡姉をお招きして講演されるとのことで、福島の実状をお聞きしたいと思ったからです。

現在会津若松では、除染はされていません。理由は、観光にダメージを与えるからです。しかし、汚染は実際にあります。そのため片岡姉達は、教会に計測所を作り、市民の健康を守る努力をされているそうです。この話に驚きました。チェルノブイリでは、国が各地に設置して、市民が自由に計測しています。しかし福島では、こんな当然の事さえ自分達で頑張らなければいけないのです。国は、国民の安全を守ってくれないのです。

午後の第五福竜丸のお話も、一緒でした。当時関係者や報道陣が、除染していない第五福竜丸に押し寄せたそうです。国は、その時も守ってくれませんでした。

キリスト者の生き方を考えさせられました。



「第五福竜丸と宣教師」菅野君江姉



←富島裕史牧師による開会礼拝



T N G 春キャン報告(堀 育美)



→ ボーマン夫人

→ 齋藤幸二牧師による開会礼拝



ボーマン夫人帰国にあたって

小鹿教会 神原博子

御夫君と共に宣教のため、あゆみの家の設立、子供の教育、のあり方等々、多くの人々に、キリストの風を送って御奉仕されました。戦後 8 年後に幼いお子さんを抱え、復興もまだできぬ日本に足をふみ入れた時には、どんなにか御苦労、不安もあった事と思いますが、持ち前の明るさと積極的な働きで沼津地区そして大垣に地を固め、早速婦人会連盟にも参加されたということでした。

東海教区の中におられていつも明るく多勢の人々と交わり、神と共にいることの勇気を与えてくださいましたことは本当に感謝です。

これからアメリカ、カンザスに居を定めて過ごされますが、あまりにも長い日本に比べ、アメリカの事情を私はよく知らない、これからが新しい出発、いつも夢をもっているとの言葉に、ボーマン夫人の前には一杯希望がある心強さを感じました。

主によって一つの意気を一人一人に与えられた豊かな御挨拶でした。

どうか神様のお守りと恵みがありますよう、送る女性会も心より日々祈っております。

***この「女性会の集い」の1週間後、ボーマン夫人は無事帰国されました。**



ルターの結婚と家庭

- 3 - ルターの結婚生活

大垣・岐阜教会牧師 齋藤幸二

1525年の結婚後、カタリナとルターの間に男の子3人、女の子3人が生まれました。彼らは修道士のいなくなったヴィッテンベルクの修道院に、領主の許可を得て

住んでいました。生活は苦しくなったのですが、ルターは家計のこととなると全くカタリナに頼っていました。お金には無頓着なルターは自分の著作の印税や原稿料を受け取らなかったのです。(もっとも当時は著作権というものはなく、だれもが好き放題に出版していたのですが)。

6人の子供だけでも大変なのに、ルターの親族まで自分たちの子どもをルターの家庭に押し付ける始末でした。ルターは決して断らない人だったのです。一時は12人もの甥っ子を預かり、ルターの家庭はまさに保育園状態でした。おまけに彼らが住んでいた元修道院には連日ルターの教えを聞きに来る学生や客が大勢いて、いつも食卓は一杯でした。

カタリナは畑を耕し、家畜を飼い、ビールやハーブ薬まで自家製造して家計を切り盛りしていました。食べたり飲んだりすることが好きで、家計のことは一切顧みない夫ルターに仕え、カタリナは宗教改革を陰で支えていたのです。



ヴィッテンベルクのルターハウス



カタリナ像

女性会は、福祉村を応援しています

デンマーク牧場に特別養護老人ホームを造りたいと声をあげたのは、女性会でした。当時必要だった自己資金のうち1億4,350万円を借入して造られた「ディアコニア」。東海教区全体で話し合われ、決断されたことでした。その返済が始まって13年、返済残額は5,680万円になりました！皆が手を取り合えることは大きな喜びですね。これからも祈りと支援を続けていきましょう。



献品感謝します！

☆☆☆ 売り上げは、福祉村募金 に ☆☆☆

今年も5月3日(毎年ほとんどこの日です)教区女性会で、デンマーク牧場のグリーンズフェアに出店しました。教区女性会役員3人と、その家族たちの力強い協力をえて♪各女性会の皆さんから送っていただいた手づくりの品をテーブルに気持ちを込めて並べると、家族連れの出場者や、介助を受けて散策中のディアコニアの入居者の方たちが次々と手にとり買い求めてくださいました。当日はお天気にも恵まれ、賑やかな1日を過ごすことができました。グリーンズフェアには、数々の出店、コンサート、こひつじレース、羊の毛刈り…etc…を目当てに毎年たくさんの方が来場されています。来年は皆さんも訪問して牧場での1日を楽しんでみてはいかがでしょうか。 <小谷由美子>

聖書の中の女性たち (その 3)

「プリスキラ」



(使徒言行録 18 章 2 節)

栄光教会牧師 内藤文子

使徒言行録 18 章 1～2 節には、プリスキラと夫・アキラを紹介して、「その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。そこで、ポントス州出身のアキラというユダヤ人とその妻プリスキラに出会った。」とある。続いて、3 節に「パウロはこの二人を訪ね、職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。」とある。夫婦で自分たちの職業・テント造り（天幕造り）を支えにして、宣教活動をしている。

同じく 18 章 24 節には、「アポロ」という説教者と交わっている。また、ローマの信徒への手紙 16 章 3～4 節には、「キリスト・イエスに結ばれてわたしの協力者となっている、プリスカとアキラによろしく。命がけでわたしの命を守ってくれたこの人たちに、わたしだけでなく、異邦人のすべての教会が感謝しています。」とある。パウロは二人が自分のために危険を冒してくれたことで感謝している。

二人の家は、コリント（I コリント書 16：19）、エフェソ（使徒言行録 18：18）、ローマ（ローマ書 16：3～）であり、その意味では各地を旅したと言える。そこは宣教センター的働きをしていたであろう。二人の名前について非常に目立っているのは、順番で、プリスカの方が 6 回中 4 回も、「妻一夫」の順に言及されている。プリスカとアキラではおそらくその共同体にあっては妻の方が有力であったからだと思像できる。

使徒言行録での「プリスキラ」とローマ書「プリスカ」の違いは、「プリスキラ」の方が愛称形（プリスカちゃん）で、ある女性神学者は、「女性軽視」の呼び方としている。



第 1 回 合同役員会 および 東日本大震災被災地訪問

2016 年 6 月 21 日～23 日（仙台・石巻・気仙沼）

参加者 11 名：連盟役員・各教区会長・小勝奈保子牧師・野口勝彦牧師



1 日目は、礼拝から始まり、その後、役員会。

「TNG 支援」、「会報」については、発題の後、話し合いが行われました。

また、「被災地（東北・熊本）支援をどのようにしていくか」「総・大会の計画」「女性会のありかた」などについて、長時間にわたり、真剣に意見を出し合いました。

*** 追って各女性会に議事録が配布されますので、各女性会でもご検討いただきたいと思います。**

2 日目から 3 日目は、被災地を訪問しました。防潮堤やかさ上げなどの工事が至る所で行われてはいましたが、住民は戻ってこられるのでしょうか・・・複雑な思いを持ちながらも、各地の支援先を訪問し、交流をすることができました。これまでのルーテル教会の皆様の様々な形での支援の足跡のひとつとして右のようなマークが貼られた倉庫をいくつも見つけました。現地



に入られて、また行かれなくても祈りと献金などでの一人おひとりのお支えを思い、胸があつくなりました。



*** この訪問の詳細は、「となりびと」ブログをご覧ください。 < 櫻井國江 >**



会津放射能情報センター
放射能から子どものいのちを守る会



住所：会津若松市西栄町8-36
TEL：080-6015-8036
代表：片岡輝美

次回 第4回 女性会の集い ご予約ください！

フィンランドの楽器カンテレとゴスペル “みんなで讃美” の時間もあります

小澤実紀さん コンサート

日時：2016年10月1日（土）10：30～15：00

場所：日本福音ルーテル挙母教会

うちの教会の自慢の花壇

◆名古屋めぐみ教会◆

教会前の歩道に面した花壇は、園芸班が担当しています。花の多くは種から育てられ、水やり、植え替え、草取り等、何時も美しく保たれています。

教会を訪れる方だけではなく、散歩やジョギング中の方々も、教会前のベンチで休憩されて楽しんでおられます。その時、一緒に教会の掲示板も見て頂けるため、お花たちは良い伝道活動をしてきています。



編集後期 集い後、片岡さんへ送信したお礼メールの返信に、皆さんが真剣な眼差しで聴いて下さったことや、女性たちの豊かさや明るさに大変励まされたということなどが書かれていました。そして、「主にあって皆さんと繋がることができ、本当に嬉しい1日となりました」と。皆さんの祈りが結集され、思いがいっぱいに詰められた『アガパンサス3号』をお届けすることができましたことを心より感謝いたします。勿論、片岡さんにも送らせていただきます！